

## 情報の収集と整理

## カードを使って情報を集める

論理を組み立てるためには、情報を収集し、それを整理する必要があります。その手段としてカードが有効であると考えました。「ディベート情報カード」と名づけ、一つのカードにつき、一つの情報を書くようにします。また、その情報がどんなことに使えるのかを明確にするために、分類項目として、「立論の根拠」「問題点の指摘」「反論の予想」「質問の予想」などを用意しました。

「消費税は必要か」では、次のような情報が集まりました。

- 税をたくさん払っても、本当に国民のために使っているのか分からない。それなのに、消費税まで払ったら、今後、生活が大変になってしまう。 (立論の根拠)
  - 100円なら3円だけだが、もし、家や土地など価値の高いものを購入するとき、1000万円が税別だとすると、何と30万円もお荷物がつくではないか。30万円なら普通のサラリーマンの月給と同じくらいだ。 (問題点の指摘)
  - 消費税がなくなったら、その代わりに税をどうやってとるのか (質問の予想)
- 「治らない病気を患者に知らせるべきか」で集まった情報は、次のようなものです。
- 治らない病気でも、やっぱり自分の体のことだから病名を知りたい。病名がわからないまま死んでしまうのはいやだから、残り少ない命なら、一生懸命生きて、悔いの残らないようにしたい。 (立論の根拠)
  - 病状を伝えたあと、患者から「言ってほしくなかった」と言われたら、あなたならどうする。 (反論の予想)
  - 患者本人の気持ちも知らずに、勝手に自分たちの考えで知らせていいのか。 (反論の予想)

## 授業者がやるべきことは何か

この段階の学習は、チームごとのグループ学習が主になります。では、授業者は、どんなことをするべきなのでしょう。

「消費税は必要か」では、肯定側は、否定側に比べて情報カードが少ないようだったので、社会科の公民の教科書や資料集も参考にするようにアドバイスをしました。「治らない病気を患者に知らせるべきか」では、テーマが難しいせいか、情報カードは多くはありませんでした。しかし、医学に関する専門書を持ってきて、熱心に論理を構築する姿が見られたので、大いに褒めました。

ディベートは、立場の違う2つのチームの対戦となります。それは、“言葉のボクシング”ともいべきものです。実際のディベート・マッチが始まれば、授業者が手助けをすることはできません。しかし、事前の準備段階であれば、論理を構築していく状況を見て、劣勢な側のチームにてこ入れをすることは可能です。生徒がディベートに慣れてくれば別ですが、初心者の段階では、授業者の援助は有効に働くものと考えます。